

平成 27 年 2 月 15 日 (日) 施行

## 第 177 回 全経簿記能力検定試験 3 級 商業簿記 解説

## 第 1 問

1. 「元入れして営業を開始した」→資本金

(借) 現金 (資産) の増加 土地 (資産) の増加	(貸) 資本金 (純資産) の増加
--------------------------------	-------------------

2. 掛仕入

(借) 仕入 (費用) の発生	(貸) 買掛金 (負債) の増加
-----------------	------------------

3. 固定資産税は租税公課 (費用) で処理する。

(借) 租税公課 (費用) の発生	(貸) 現金 (資産) の減少
-------------------	-----------------

4. 約束手形の受取 → 受取手形、掛売上

(借) 受取手形 (資産) の増加 売掛金 (資産) の増加	(貸) 売上 (収益) の増加
-----------------------------------	-----------------

5. 小切手の振り出しは当座預金 (資産) を減少させる。

(借) 買掛金 (負債) の減少	(貸) 当座預金 (資産) の減少
------------------	-------------------

6. 商品の仕入れではないので未払金 (負債) で処理する。買掛金と間違えないよう注意。

(借) 備品 (資産) の増加	(貸) 未払金 (負債) の増加
-----------------	------------------

7. 給料総額から所得税などの源泉徴収分を預り金 (負債) として差し引いて支払う。

(借) 給料 (費用) の発生	(貸) 従業員預り金 (負債) の増加 現金 (資産) の減少
-----------------	------------------------------------

8. 当期に生じた売掛金が回収不能となったので貸倒損失 (費用) で処理する。

(借) 貸倒損失 (費用) の発生	(貸) 売掛金 (資産) の減少
-------------------	------------------

## 第 2 問

1. 期首・期末の純資産と当期純利益

期首貸借対照表

資 産 15,000,000	負 債 8,000,000
	期首純資産 (ア)

期末貸借対照表

資 産 18,500,000	負 債 10,800,000	
	期首純資産	期末純資産
	当期純利益 (エ)	7,700,000

- (ア) 期首資産＝期首負債＋期首純資産の関係より

$$\text{期首純資産} = \text{¥}15,000,000 - \text{¥}8,000,000 = \underline{\text{¥}7,000,000}$$

- 期末資産＝期末負債＋期末純資産の関係より

$$\text{期末純資産} = \text{¥}18,500,000 - \text{¥}10,800,000 = \underline{\text{¥}7,700,000}$$

- (エ) 期末純資産＝期首純資産＋当期純利益の関係より

$$\text{当期純利益} = \text{¥}7,700,000 - \text{¥}7,000,000 = \underline{\text{¥}700,000}$$

## 2. 売上原価と売上総利益

仕 入		損益計算書	
期首商品 750,000	売上原価 (イ) 22,400,000	売上原価 (イ) 22,400,000	純売上高 31,500,000
純仕入高 22,250,000		売上総利益 (ウ) 9,100,000	
	期末商品 600,000		

(イ) **売上原価＝期首商品棚卸高＋当期純仕入高－期末商品棚卸高** の関係より

$$\text{売上原価} = \text{¥}750,000 + \text{¥}22,250,000 - \text{¥}600,000 = \underline{\text{¥}22,400,000}$$

(ウ) **純売上高－売上原価＝売上総利益** の関係より

$$\text{売上総利益} = \text{¥}31,500,000 - \text{¥}22,400,000 = \underline{\text{¥}9,100,000}$$

### 第3問

1月7日 香住商店への売上 @ ¥20,000 × 50 個 = ¥1,000,000

(借) 売 掛 金	1,000,000	(貸) 売 上	1,000,000
⇒得意先元帳		⇒売上帳	

2月10日 香住商店に対する売掛金の回収 (同店小切手)

(借) 現 金	600,000	(貸) 売 掛 金	600,000
⇒得意先元帳			

### 第4問

2月2日 商品の仕入

前月繰越と単価が同じなので、仕入後の残高は(10個＋20個) × @ ¥2,000 = ¥60,000 として記入。

2月6日 商品の払出

16個払い出すので、残りは14個

2月9日 商品の仕入

仕入前残高 (14個 × @ ¥2,000) とは単価が違うので、合算して記入することができない。よって

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{仕入前残高} \quad 14 \text{ 個} \times @ \text{¥}2,000 = \text{¥}28,000 \\ \text{仕 入 分} \quad 20 \text{ 個} \times @ \text{¥}2,100 = \text{¥}42,000 \end{array} \right.$$

として併記する。

2月10日 商品の払出

先入先出法なので、払い出す25個中、先に仕入れた14個(@ ¥2,000)を全て払い出す。

残りの11個分を、後からの仕入分(@ ¥2,100)で払い出す。

2月13日

仕入前残高商品と単価が同じなので、仕入後の残高は(9個＋10個) × @ ¥2,100 = ¥39,900 として記入

## 第5問

### 決算整理事項

#### 1. 売上原価の計算

期首商品棚卸高は残高試算表より ¥110,000

(借) 仕 入	110,000	(貸) 繰越商品	110,000
繰越商品	170,000	仕 入	170,000

#### 2. 貸倒引当金の計上

売掛金の期末残高は ¥600,000

$$¥600,000 \times 1.0\% = ¥6,000$$

差額補充法で処理するので繰入額は ¥6,000 - ¥3,000 = ¥3,000

(借) 貸倒引当金繰入	3,000	(貸) 貸倒引当金	3,000
-------------	-------	-----------	-------

#### 3. 減価償却費の計算

備品の取得価額は ¥1,500,000、耐用年数 5 年、残存価額はゼロなので、年間の減価償却費は、

$$¥1,500,000 / 5 \text{年} = ¥300,000$$

直接法なので、備品から直接控除する。

(借) 減価償却費	300,000	(貸) 備 品	300,000
-----------	---------	---------	---------

#### 4. 現金過不足の処理

¥1,000 を雑損（費用）として処理する。

(借) 雑 損	1,000	(貸) 現金過不足	1,000
---------	-------	-----------	-------

#### 5. 引出金の処理

引出金の金額 ¥20,000 を資本金から控除する。

(借) 資 本 金	20,000	(貸) 引 出 金	20,000
-----------	--------	-----------	--------